資治通鑑 第 152 巻

令和 4 年 12 月 28 日

【梁紀八】著雍涒灘（戎申），一年。

■梁、●北魏、続国訳漢文大成 経子史部 第 9 巻 73p

高祖武皇帝八大通二年（戊申，５２８年）

●春，正月，癸亥（59-55+1=５日），魏は北海王の**顥**を以て驃騎大將軍、開府儀同三司、相州刺史と為す。

●［楊津は北人を殺さず、仁に感動］魏の北道行台の**楊津**は定州城を守り，**鮮于修禮**、**杜洛周**之間に居り，迭(たが)いに來たりて攻圍す。**津**は薪糧を蓄え，器械を治し，機に隨いて拒み撃ち，賊は克つ能わず。**津**は潛に人を使わして鐵券（漢時代に君主が臣下に対して誓約を行う際に用いる鉄製の割符。後には異民族との不可侵や敵の降将に対する生命・身分の保証などにも君主による約束の内容を保証する物的証拠として作成）を以て賊黨を說き，賊黨は**津**に應じる者有り，**津**に書を遺りて曰く、

「賊の城を圍みし所以は，正に北人を取るが爲(ため)耳。城中の北人は，宜しく盡く之を殺すべし，然らざれば，必ず患いを為さん。」

津は悉く北人を收め子城中に內れ而して殺さず，衆は其の仁を感ぜざる無し。

●柔然［定州城の楊津は陥落］**葛榮**が**修禮**に代わりて衆を統べる（前巻普通七年にあり）に及び，人をして**津**を說か使め，以て司徒と為さんことを許す。**津**は其の使いを斬り，固く守ること三年（前巻普通七年より三年目）。**杜洛周**は之を圍み，魏は救う能わず。**(9-074p) 津**は其の子の**遁**を遣わして圍みを突きて出で，柔然の**頭兵可汗**に詣りて救いを求める。**遁**は日夜泣いて請い，**頭兵**は其の從祖の**吐豆**を遣わして發（続は無し）して精騎一萬を帥いて南に出でしむ。前鋒は廣昌（漢以来代郡の県、直隷省保定道淶水県、現・保定市淶水県）に至るも，賊は隘口を塞ぎ，柔然は遂に還る。乙丑（1+60-55+1=７日），**津**の長史の**李裔**は賊を引いて入れ，**津**を執り，之を烹さんと欲し，既に而して之を捨てる。瀛州刺史の**元寧**は城を以て**洛周**に降る。

●［太后の陰謀、皇子と詐る］乙丑（1+60-55+1=７日），魏の**潘嬪**は女を生み，**太后**は詐りて皇子と言う。丙寅（2+60-55+1=8 日），大赦し，改元して武泰とす。

【蕭寶寅の没落】

●［長孫稚は遂に潼関に勝つ］**蕭寶寅**は馮翊を圍み，未だ下らず。**長孫稚**の軍は恆農に至り，行台の左丞の**楊侃**は**稚**に謂って曰く、

「昔**魏武**（66 巻漢の獻帝建安 16 年にあり）は**韓遂**、**馬超**と潼關に據りて相い拒み，**遂**、**超**之才は，**魏武**の敵に非ざる也，然るに而して勝負は久しく決せざる者は，其の險要を扼する故也。今賊は守禦は已に固く，**魏武**復た生まれると雖も，以て其の智勇を施す無し。北に蒲阪（漢書地理誌・続は蒲反を用いる、山西省河東美智永済県、現・運城市永済市）を取り，渡河し而して西し，其の腹心に入り，兵を死地に置くに如かず。則ち華州（五代志に、馮翊郡に後魏は華州を置くと）之圍みは戰わずして自ら解けん。潼關之守りは必ず內顧し而して走るべし。支節は既に解け，長安は坐して取る可き也。若し愚計を取る可くは，願わくは明公の前驅を為さん。」

稚は曰く、

「子之計は則ち善し矣。然れども今**薛修義**は河東を圍み，**薛鳳賢**は安邑に據り，**宗正珍孫**は虞坂（虞阪×、山西省河東道平陸県、現・運城市平陸県。水經注に曰く、虞板は即ち左傳の所謂顚軨にして、傳巖の東北十餘里に在り、東南は絶澗、中に於いて築きて以て道を成し、南北の路を指す、これを軨橋と謂う。橋の東北に虞原有り。上の道の東に虞城有り。其の城は北のかた長

阪に對す。二十餘里、これを虞坂と謂う）を守り進むを得ず，如何して往く可きか？」

侃は曰く、

「**珍孫**は行陳の一夫にして，因縁ありて將と為り，人に使うと為る可し，安んぞ能く人を使わん！河東の治（治所）は蒲反に在り，西に河滸（川岸の崖）に逼り，封疆は多く郡東に在り。**修義**は士民を驅帥して西に郡城を圍み，其の父母妻子は皆な舊村に留まる，一旦官軍は來たり至ると聞けば，皆な内顧之心有り，必ず風を望みて自ら潰えん矣。」

稚は乃ち其の子の**子彦**をして**侃**と騎兵を帥いて恆農より北に渡り，石錐壁（五代志に河東郡虞郷県に石錐山有りと。ここに壘壁を築く）に據ら使む，**侃**は聲言す、

「今且く此に停まり以て歩兵を待ち，且つ民情の向背を觀るべし。降名を送る者に命じて各々自ら村に還らしむ，台軍が三烽を擧げるを俟ちて，當に亦た烽を擧げて相い應じるべし。其の烽に應じる無き者は，乃ち賊黨也，當に進撃して之を屠り，獲る所を以て軍に賞すべし。」

是に於いて村民は轉た相い語を告げ，實に未だ降らざる者と雖も亦た詐りて烽を擧げ，一宿之間に，火光は數百里に遍（あまね）く。賊の城を圍む者は其の故を測らず，各々自ら散じて歸る。**修義**も亦た逃げ還り，**鳳賢**と俱に降るを請う。丙子（12+60−55+1=１８日），**稚**は潼關に克ち，遂に河東に入る。

●<u>［長孫稚は塩税廃止に反対］</u>會々詔有りて鹽池の税（魏は塩税を弛めて民心を買おうとした）を廃す，**稚**は上表して以為く、

「鹽池は天産之貨なり，京畿に密邇す，唯だ應に寶に而して之を守り，**(9-075p)** 均贍（等しく賑わす）するに理を以てすべし。今四方は多虞にして，府藏は罄竭す，冀、定は擾攘し，常調（常謂×）之絹は復た收む可からず，唯だ府庫に仰ぎ，出る有りて入る無し。鹽税を略論せん，一年之中，絹に准じ而して言えば，三十萬匹を減（続は下）ぜず，乃ち是れ冀、定二州（葛栄・杜洛周に攻囲せらる）を移して畿甸に置くなり。今若し之を廃せば，事は再失（以前宣武帝は甄琛の言を用いて塩税を廃す、これを失計と成す）に同じ。臣は前に仰ぎて嚴旨に違い，而して先ず關の賊を討たず，逕に河東を解く者は，長安を緩にし而して蒲反（薄阪×）を急にするに非ず，一たび鹽池を失えば，三軍は食乏しからん。天は大魏を助け，茲（こ）の計は爽（たが）わず。昔**高祖**は昇平之年に，乏少する所無きすら，猶ほ鹽官を創置し而して典護を加え，物（民）と利を競うに非ず，利に由り而して俗を亂るるを恐れる也。況んや今國用は不足し，六年之粟を租徵（続による、租征）し，來歳之資を調折するは，此れ皆な人の私財を奪い，事は已むを獲ざるなり。臣は輒ち同監將、尉（鹽池を監するの將尉を謂う、北史・魏書には同を司に作る）に符して，還た所部を帥い，常に依りて税を収め，更に後敕（やむべきか否かは後の勅書に従わん）を聽かん。」

●<u>［蕭寶寅は長安を落ち延びる］</u>**蕭寶寅**は其の將の**侯終德**を遣わして**毛遐**を撃たしむ。會々**郭子恢**等は屢々魏軍の敗る所と為り，**終德**は其の勢いの挫けたるに因り，軍を還して**寶寅**を襲う。白門（長安城の東出北来の第三門を青門という。白門は西出南来の第三門だろう）に至りて，**寶寅**は始めて覺り，丁丑（13+60−55+1=１９日），**終德**と戰い，敗れ，其の妻の**南陽公主**及び其の少子を攜えて麾下百餘騎を帥いて後門より出で，**万俟丑奴**に奔る。**丑奴**は**寶寅**を以て太傅と為す。

●二月，魏は**長孫稚**を以て車騎大將軍、開府儀同三司、雍州刺史、尚書僕射、西道行台と為す。

●<u>［群盜の李洪を討伐］</u>群盜の**李洪**は鞏西（鞏県以西、鞏県は河南省河洛道鞏県、現・鄭州市鞏義市）闕口以東（伊闕口以東、河南省河洛道洛陽県の南、現・洛陽市洛竜区）を攻燒し，南に諸蠻と結ぶ。魏の都督の**李神軌**、武衛將軍の**費穆**は之を討つ。**穆**は**洪**を闕口南に敗り，遂に之を平らぐ。

●<u>［葛榮は杜洛周を撃ち併合］</u>**葛榮**は**杜洛周**を撃ち，之を殺し，其の衆を並せる。

【爾朱榮の洛陽進撃意図と太后クーデター】

●［靈太后と肅宗の間険悪に］魏の**靈太后**が再び（150 巻普通六年）臨朝して以來，嬖倖は事を用い，政事は縦弛し，威恩は立たず，盗賊は蜂起し，封疆（秦隴以西、冀幷以北は盗区となり、淮汝泝泗の間は皆梁の侵す所となる）は日々に蹙（ちじま）る。魏の**肅宗**の年は浸く長じ，**太后**は自ら為す所謹まざるを以て，左右が之を**帝**に聞せんことを恐れ，凡そ**帝**の愛信する所の者は，**太后**は輒ち事を以て之を去り，務めて壅蔽を為し，**帝**をして外事を知ら使めず。通直散騎常侍の昌黎の**谷士恢**は**帝**に寵有り，左右を領せ使む。**太后**は屢々之を諷し，用いて州と為さんと欲し，**士恢**は寵を懐い，外に出るを願わず，**太后**は乃ち誣うるに罪を以てし而して之を殺す。**蜜多道人**有り，能く胡語し，**帝**は常に左右に置く，**太后**は人をして之を城南に殺さ使め，而して詐りて懸賞して賊を購う。是に由り母子之間は嫌隙日々に深し。

●［高歡は爾朱榮に覇道を勧める］是の時，車騎將軍、儀同三司、並、肆、汾、廣（當に唐に作るべし。魏收志に曰く、孝昌中、唐州を置く。高歡は義を建て唐州を改めて晉州と曰う。爾朱榮はこの時に兵を晉陽に駐む）、恆、雲六州討虜大都督の**爾朱榮**の兵の勢いは強盛なり，魏朝は之を憚る。**(9-076p) 高歡**、**段榮**、**尉景**、**蔡俊**は先に**杜洛周**（高歡らが杜洛周に帰する事は 150 巻普通六年にあり）の黨中に在り，**洛周**を圖らんと欲し，果たさず，逃げて**葛榮**に奔り，又た亡げて**爾朱榮**に歸す。**劉貴**は先に**爾朱榮**の所に在り，屢々**歡**を**榮**に薦め，**榮**は其の憔悴を見，未だ之を奇とせざる也。**歡**は**榮**に従いて馬廄に之き，廄に悍馬有り，**榮**は**歡**に命じて之を剪らしむ（毛を切る），**歡**は羈絆（きずな）を加えず而して之を剪り，竟に蹄嚙せず（ひづめに蹴られず）。起ちて，**榮**に謂って曰く、

「惡人を御するも亦た猶ほ是のごとし矣。」

榮は其の言を奇とし，**歡**を床下に坐さしめ，左右を屏け，訪ねるに時事を以てす。**歡**は曰く、

「聞く、公は馬十二谷（爾朱榮は馬の飼育を谷数で示す）有り，色別して群を為すと，此を畜（やしな）うは竟に何の用なる也？」

榮は曰く、

「但だ爾の意を言え！」

歡は曰く、

「今**天子**は闇弱にして，**太后**は淫亂なり，嬖孽は命を擅にし，朝政は行われず。**明公**の雄武を以て，時に乘じて奮發し，**鄭儼**、**徐紇**之罪を討ち以て**帝**側を清めば，霸業は鞭を擧げて而して成る可し，此れ**賀六渾**（高歡の字）之意也。」

榮は大いに悦ぶ。語りて日中より夜半に至り乃ち出で，是より毎に軍謀に參す。

●[元天穆と賀拔岳の策謀]并州刺史の**元天穆**は，**孤**（拓跋鬱律の第四子）之五世孫也，**榮**と善し，**榮**の兄は之に事える。**榮**は常に**天穆**及び帳下都督の**賀拔岳**と密に謀り，兵を擧げて洛に入り，內に嬖倖を誅し，外に群盗を清めんと欲し，二人は皆な勸めて之を成さしむ。

●［爾朱榮は上京を強行せんとす］**榮**は上書す，以て、

「山東の群盗は方に熾（さかん）にして，冀、定は覆沒し，官軍は屢々敗れる。請う精騎三千を遣わして東に相州を援けん。」

太后は之を疑い，報じるに以て、

「**念生**は梟戮せられ，**寶寅**は擒に就き，**丑奴**は降るを請い，關、隴は已に定まる。**費穆**は大いに群蠻を破り，絳蜀は漸（ようや）く平らぐ。又，北海王の**顥**は衆二萬を帥いて出でて相州に鎮す，兵を出すを須たず。」

榮は復た上書して，以為く、
「賊勢は衰えたりと雖も，官軍は屢々敗れ，人情は危ぶみ怯え，恐らくは實に用い難し。若し更に方略を思わざれば，以て萬全無し。臣愚は以為えらく、蠕蠕主の**阿那瑰**は國の厚恩を荷ない（柔然の阿那瑰を魏が支援したのは 149 巻普通元年から三年にあり），未だ應に報を忘れるべからず，宜しく遣わして兵を發して東して下口（居庸の下口）に趣き以て其の背を躡ましめ，北海之軍（事×）をして嚴に警備を加え以て其の前に當たらしむべし。臣の麾下は少なきと雖も，輒ち力命を盡くさん。井陘より以北，滱口以西は，險要に分據し，其の肘腋（わき）を攻めん。**葛榮**は**洛周**を並せると雖も，威恩は未だ著かず，人類差異し（杜洛周は柔玄鎮の民、葛榮は鮮于修禮の黨でもと同類に非ず。併呑して一と為る），形勢は分かつ可からん。」
遂に兵を勒し，義勇を召集し，北は馬邑を捍ぎ，東に井陘を塞ぐ。**徐紇**は**太后**を說き鐵券を以て**榮**の左右を間せしめ，**榮**は聞き而して之を恨む。
●［太后は肅宗を毒殺して幼主を立つ］魏の**肅宗**も亦た**儼**、**紇**等を惡み，**太后**に逼るも，去る能わず。密に**榮**に詔して兵を舉兵げて內に向かわしめ，以て**太后**を脅さんと欲す。**榮**は**高歡**を以て前鋒と為し，行きて上黨に至り，**帝**も復た私詔を以て之を止める。**儼**、**紇**は禍いの己に及ぶを恐れ，陰に**太后**と謀りて（9-077p）**帝**を鴆す（毒殺）。癸丑（49-25+1=２５日），**帝**（年 19）は暴に殂す。甲寅(50-25+1=２６日），**太后**は皇女を立てて**帝**と為し，大赦す。既に而して下詔して稱す、
「**潘充華**（前の潘嬪なり）は本は實に女を生む，故の臨洮王の**寶暉**（高祖の孫）の世子の**釗**は，體は**高祖**よりす，宜しく大寶を膺くべし。百官文武は二階を加え、，宿衛は三階を加えん。」
乙卯（51-25+1=２７日），**釗**は即位す。**釗**は始めて生まれて三歲なり，**太后**は久しく專政せんと欲し，故に其の幼なるを貪り而して之を立つ。

【爾朱榮の河陰之亂】

●［爾朱榮は政權奪取に向かう］**爾朱榮**は之を聞き，大いに怒り，**元天穆**に謂って曰く、
「**主上**は晏駕す，春秋十九なるに，海內は猶ほ之を幼君と謂う。況んや今未だ言わざる之兒を奉じて以て天下に臨むをや，治安を求めんと欲するも，其の得可き乎！吾は鐵騎を帥いて山陵に赴き哀し，奸佞を剪除し，更に長君を立てんと欲するが，何如や？」
天穆は曰く、
「此れ**伊**（伊尹）、**霍**（霍光）も復た今に見る矣！」
乃ち抗表して稱す、
「**大行皇帝**は萬方を背棄し，海內は咸な稱すに鴆毒して禍いを致せり。豈に**天子**不豫にして，初めより醫を召さず，貴戚大臣は皆な側に侍せざる有らんや，安んぞ遠近をして怪愕せ使めざるを得ん！又た皇女を以て儲兩（太子を儲君と謂う。易に曰く明兩を離と作す。大人は以て明を繼ぎ四方を照らすと）と為し，虛しく赦宥（大赦）を行う。上は天地を欺き，下は朝野を惑わす。已に乃ち君を孩提之中に選び，實に奸豎をして朝を專らにし，綱紀を隳亂せ使む，此れ何ぞ異目を掩いて雀を捕り，耳を塞いで鐘を盜むに異ならんや！今群盜は沸騰し，鄰敵は窺窬す，而るに未だ言わざる之兒を以て天下を鎮安せんと欲す，亦た難からず乎！願わくは臣に聽して闕に赴き，大議に參預し，侍臣に**帝**の崩ずる之由を問い，禁衛（続は侍衛）の知らざる之狀を訪ね，**徐**、**鄭**之徒を以て之を司敗に付し，同天之恥（君父の仇は義として天を同じくす）を雪ぎ，遠近之怨みを謝せしめ，然る後更に宗親を擇び以て寶祚を承けん。」
榮の從弟の**世隆**は，時に直閤為り，**太后**は遣わして晉陽に詣りて**榮**を慰諭せしむ。**榮**は之を留めんと欲

し，**世隆**は曰く、
「朝廷は兄を疑う，故に**世隆**を遣わして來たらしむ，今**世隆**を留めれば，朝廷をして預(あらかじ)め之が備えを為すを得使めん，計に非ざる也。」
乃ち之を遣る。
●［**葛榮は魏の滄州占領**］三月，癸未（19+60-54+1=２６日），**葛榮**は魏の滄州（魏の肅宗熙平二年に瀛州と冀州を分けて置き、饒安に治し、浮陽郡に属する饒安・浮陽・高城・章武の４県と楽陵郡に属する楽陵・陽信・厭次・湿沃の４県と安徳郡に属する般・重合・重平・平昌の４県の合わせて３郡12県を管轄、饒安は直隷省津海道千童県、現・滄州市塩山県千童鎮）を陥し，刺史の**薛慶之**を執り，居民の死者は什に八九あり。
●乙酉（21+60-54+1=２８日），魏は**孝明皇帝**を定陵に葬し，廟號を**肅宗**とす。
●［**太后は迎撃態勢構築**］**爾朱榮**は**元天穆**と議し，彭城の武宣王の忠勳有り，其の子の長樂王の**子攸**が，素より令望有るを以て，之を立てんと欲す。又た從子の**天光**及び親信の**奚毅**、倉頭の**王相**を遣わして洛に入り，**爾朱世隆**と密議せしむ。**天光**は**子攸**に見え，具に**榮**の心を論じ，**子攸**は之を許す。**天光**等は晉陽に還り，**榮**は猶ほ之を疑い，乃ち銅を以て**顯祖**の諸子孫の為に各々像を鑄（魏では皇后を立てるに金人を鑄てトす。慕容氏は冉閔むに謂い金を以て己の像を鑄しむ。成らず），唯だ長樂王の像のみ成る。**(9-078p) 榮**は乃ち兵を起して晉陽を發し，**世隆**は（洛陽を）逃げ出し，**榮**に上黨に會す。**靈太后**は之を聞き，甚だ懼れ，悉く王公等を召して入りて議せしむ，宗室大臣は皆な**太后**の為す所を疾み，肯えて言を致すもの莫し。**徐紇**は獨り曰く、
「**爾朱榮**は小胡なり，敢えて兵を稱して闕に向かう，文武宿衛は以て之を制すに足る。但だ險要を守り逸を以て勞を待てば，彼は懸軍千里にして，士馬は疲弊すれば，之を破るは必ずなり矣。」
太后は以て然りと為し，黄門侍郎の**李神軌**を以て大都督と為し，衆を帥いて之を拒ましめ，別將の**鄭季明**、**鄭先護**をして兵を將いて河橋を守らしめ，武衛將軍の**費穆**をして小平津に屯せしむ。**先護**は，**儼**之從祖兄弟也。
●［**爾朱榮は子攸を皇帝に擁立**］**榮**は河内に至り，復た**王相**を遣わして密に洛に至り，長樂王の**子攸**を迎えしむ。**夏，四月**，丙申（32-24+1=９日），**子攸**（彭城王の勰の第三子）は兄の彭城王の**劭**、弟の霸城公の**子正**と潛に高渚より河を渡り，丁酉（33-24+1=１０日），**榮**に河陽に會し，將士は咸な萬歲を稱す。戊戌（34-24+1=１１日），河を濟り，**子攸**は**帝**に即位し，**劭**（勳×）を以て無上王（劭は彭城の嫡嗣かつ魏主の兄なり、その尊き事上無きの意味。君有るに而も無上と言う、君子是を以て魏主の終わらざるを知る）と為し，**子正**を始平王と為す。**榮**を以て侍中、都督中外諸軍事、大將軍、尚書令、領軍將軍と為し、左右（左右千牛備身を領する）を領せしめ，太原王に封じる。
●［**爾朱榮の河陰之亂**］**鄭先護**は素より**敬宗**（子攸の廟号）と善く，**帝**の即位を聞き，**鄭季明**と開城して之を納れる。**李神軌**は河橋（晉の杜豫は富平津に河橋を建てる、河北側岸には二城有りて相対す）に至り，北中（魏の高祖は北務中郎府を置き、諸從隷府庫並びに羽林虎賁を徒し、隊を領してこれを防がしむ、洛陽の北の守り）の守らざるを聞き，即ち遁げ還る。**費穆**は衆を棄てて先ず**榮**に降る。**徐紇**は矯詔して夜殿門を開き，騏驎廄（魏の御馬厩）の御馬十匹を取り，東に兗州に奔り，**鄭儼**も亦た走りて鄉里（營陽開封の人）に還る。**太后**は盡く**肅宗**の後宮を召し，皆な出家せ令め，**太后**も亦た自ら髪を落す。**榮**は百官を召して車駕を迎えしめ，己亥（35-24+1=１２日），百官は璽綬を奉じ，法駕を備え，**敬宗**を河橋に迎える。庚子（36-24+1=１３日），**榮**は騎を遣わして**太后**及び**幼主**を執り，送りて河陰に至らしむ。**太后**は**榮**に對して陳說する所多し，**榮**は衣を拂い而して起ち，**太后**及び**幼主**を河に沉める。
●［**朝廷の扱いに苦慮**］**費穆**は密に**榮**に說いて曰く、

「公の士馬は萬人を出でず，今長驅して洛に向かい，前に横陳無く，既に戰勝之威無く，群情は素より厭服せず。京師之衆，百官之盛を以て，公の虛實を知れば，輕侮之心有り。若し大いに誅罰を行い，更に親黨を樹てざれば，恐らくは公の北に還る之日，未だ太行を度らず而して內變は作(おこ)らん矣。」

榮は心に之を然りとし，親しむ所の**慕容紹宗**に謂って曰く、

「洛中の人士は繁盛にして，驕侈は俗を成す，芟剪を加えざれば，終に制馭し難からん。吾は百官の出で迎えるに因りて，悉く之を誅せんと欲すが，何如や？」

紹宗は曰く、

「**太后**の荒淫は道を失い，嬖倖は權を弄び，四海を淆亂す，故に明公は義兵を興し以て朝廷を清める。今故無くして多士を殲夷し，忠佞を分かたざれば，恐らくは大いに天下之望を失わん，長策に非ざる也。」

榮は聽さず，乃ち**帝**に請いて河に循いて西に淘渚（魏紀には陶渚に作る。孟津は富平津といい、これを陶河と謂う。河陰の西北三里の北長堤の西にあり）に至らしめ，(9-079p) 百官を行宮の西北に引き，雲わく、

「天を祭らんと欲す」

百官は既に集まり，胡騎は列んで之を圍み，責めい以わく、

「天下は喪亂し，**肅宗**は暴に崩じるは，皆な朝臣の貪虐にして，匡弼する能わざるに由る」

と。因りて兵を縱ちて之を殺し，丞相の高陽王の**雍**、司空の**元欽**、儀同三司の義陽王の**略**より以下，死者は二千餘人。前黃門郎の**王遵業**兄弟は父の喪に居り，其の母は，**敬宗**之從母也，相い帥いて出で迎え，俱に死す。**遵業**は，**慧龍**之孫也，俊爽にして學に涉り，時の人は其の才を惜しみ而して其の躁を譏る。朝士百餘人有りて後れて至る，**榮**は復た胡騎を以て之を圍ましめ，令して曰く、

「能く禪文を為す者有れば死を免じん。」

侍御史の**趙元則**は出でて應募し，遂に之を為ら使む。**榮**は又た其の軍士をして言わ令む、

「**元氏**は既に滅び，**爾朱氏**は興る。」

皆な萬歲を稱す。**榮**は又た數十人を遣わして拔刀して行宮に向かわしめ，**帝**は無上王の**劭**、始平王の**子正**と俱に帳外に出る。**榮**は先ず并州の人の**郭羅剎**、西部高車の**叱列殺鬼**を遣わして**帝**の側に侍らしめ，詐りて防衛すと言い，**帝**を抱きて帳に入らしめ，餘人は即ち**劭**及び**子正**を殺し，又た數十人を遣わして**帝**を河橋に遷し，之を幕下に置く。

●<u>［去就に迷う爾朱榮］</u>**帝**は憂憤して計無く，人をして**榮**に諭旨せ使めて曰く、

「**帝王**は迭(たが)いに興り，盛衰は常無し。今四方は瓦解し，將軍は袂を奮い而して起つ，向かう所前無く，此れ乃ち天意なり，人力に非ざる也。我は本相い投じるは，志は生を全くするに在り，豈に敢えて妄りに天位を希わんや！將軍は逼られ，以て此に至れり。若し天命歸する有れば，將軍は宜しく時に尊號を正すべし。若し推し而して居らず，魏の社稷を存せば，亦た當に更に親賢を擇び而して之を輔くべし。」

時に都督の**高歡**は**榮**に**帝**を稱するを勸め，左右は多く之に同じ，**榮**は疑いて未だ決せず。**賀拔岳**は進みて曰く、

「將軍は首として義兵を擧げ，志は奸逆を除かんとす，大勳は未だ立たず，遽(にわか)に此の謀有れば，正に禍いを速かにす可く，未だ其の福を見ず。」

榮は乃ち自ら金を鑄て像を為り，凡そ四鑄すれども，成らず。功曹參軍の燕郡（漢の高祖は天下を定め燕はなお国と為す。昭帝は改めて廣陽郡とし、後漢光武帝は上谷に併す。和立てまた廣陽郡と為し、晉に廣陽國、魏に燕軍と為す）の**劉靈助**は善く卜筮し，**榮**は之を信じ，**靈助**は言わく、

「天時人事は未だ可ならず」

榮は曰く、
「若し我不吉ならば，當に**天穆**を迎えて之を立つべし。」
靈助は曰く、
「**天穆**も亦た不吉なり，唯だ長樂王に天命有る耳。」
榮も亦た精神恍惚として，自ら支持せず。久しく而して方に寤ね，深く自（続は思）ら愧悔して曰く、
「過誤すること是くの若し，唯だ當に死を以て朝廷に謝すべし。」
賀拔岳は**高歡**を殺して以て天下に謝せんと請い，左右は皆な曰く、
「**歡**は復た愚疏にして，言は難きを思わずと雖も，今四方は多事にして，須く武將に藉（よ）るべし，請う之を捨（お）き，其の後效を收めん。」
榮は乃ち止む。夜四更，復た**帝**を迎えて營（榮×）に還る，**榮**は馬首を望みて叩頭して死を請う。
●［帝を報じて入京も、百官逃竄］**榮**が從える所の胡騎は朝士を殺すこと既に多く，敢えて洛城に入らず，即ち北に向かわんと欲し、遷都之計を為す。**榮**は狐り疑うこと甚だ久しく，武衛將軍の**汎禮**は固く諫める。辛丑（37-24+1=１４日），**榮**は**帝**を報じて入城す。**帝**は太極殿に御し，下詔して大赦し，改元して建義とす。**(9-080p)** 太原王に從うの將士は，普（あまね）く五階を加え，在京の文官は二階，武官は三階，百姓は租役を復（免除）すること三年。時に百官は蕩盡し，存する者は皆な竄匿して出でず，唯だ散騎常侍の**山偉**（胡三省曰く、山偉は元叉を稱頌し、而して進むを得たり。其の人知る可し。特だ乾没して以て一時の利祿を苟もするのみと）は一人赦を闕下に拜す。洛中の士民は草草（詩の巷伯に曰く、勞人草草と。注に云わく、草草は心を勞するなりと。箋に云わく、草草は將に妄りに罪を得んとするを憂うなり）として，人は異慮を懷き，或は雲わく、
「**榮**は兵を縱ちて大いに掠めんと欲す」
と，或は雲わく、
「晉陽に遷都せんと欲す。」
と。富める者は宅を棄て，貧しき者は襁負し，率ね皆な逃竄し，什に一二存せず，直衛は空虛にして，官守曠廢す。**榮**は乃ち上書して，稱す、
「大兵の交際は，齊壹す可きは難く，諸王朝貴は，橫死する者衆し，臣は今軀を粉にして咎を塞ぐに足らず，乞う亡者に追贈し，微かに私責を申べん。**無上王**は請う追尊して**無上皇帝**と為し，自餘の河陰に死する者，諸王（続は王）には三司を贈り，三品には令、僕を贈り，五品には刺史を贈り，七品已下及び白民（官位無き者）には郡（郡主）、鎮（鎮將）を贈らん。死者の後無きには繼を聽し，即ち封爵を授けん。又た使者を遣わして城を循りて勞問せしめん。」
詔して之に從う。是に於いて朝士は稍く出で，人心は粗ぼ安ず。**無上王**之子の**韶**を封じて彭城王と為す。
●［皇居の盛を見て遷都中止］**榮**は猶ほ遷都之議を執る，**帝**も亦た違う能わず。都官尚書（軍事刑獄担当）の**元謐**は之を爭いて，以て不可と為す，**榮**は怒りて曰く、
「何ぞ君の事に關せん，而るに固く執る也！且つ河陰之役（続は事、爾朱榮が朝臣二千餘人を殺す事）は，君應に之を知るべし。」
謐は曰く、
「天下の事は當に天下と與に之を論ずべし，奈何ぞ河陰之酷を以て而して**元謐**を恐れささんや！**謐**は，國之宗室なり，位は常伯（尚書は古の常伯の任）に居る，生きて既に益無し，死すとも復た何ぞ損せん！正に今日首を碎き腸を流さ使（続は無し）むとも，亦た懼る所無し！」
榮は大いに怒り，**謐**の罪を抵さんと欲す，**爾朱世隆**は固く諫め，乃ち止む。見る者は震悚（震え上がり懼れる）

せざるは莫し，**諶**の顔色は自若たり。後數日にして，**帝**は**榮**と高きに登り，宮闕は壯麗にして，列樹して行を成すを見，乃ち歎じて曰く、

「臣は昨は愚闇にして，北遷之意有り，今皇居之盛んなるを見，**元尚書**の言を熟思し，深く奪う可からず。」

是に由りて遷都之議を罷む。**諶**は，**諡**之兄也。

【爾朱榮政権の小康状態】

●［魏の新人事体制］癸卯（39-24+1=１６日），江陽王の**繼**を以て太師と為し，北海王の**顥**を太傅と為す。光祿大夫の**李延寔**を太保と為し，爵の濮陽王を賜う。并州刺史の**元天穆**を太尉と為し，爵の上黨王を賜う。前侍中の**楊椿**を司徒と為す。車騎大將軍の**穆紹**を司空と為し，尚書令を領せしめ，爵の頓丘王に進める。雍州刺史の**長孫稚**を驃騎大將軍、開府儀同三司と為し，爵の馮翊王を賜う。殿中尚書の**元諶**を尚書右僕射と為し，爵の魏郡王を賜う。金紫光祿大夫の廣陵王の**恭**に儀同三司を加える。其の餘は家より起きて暴（にわか）に貴き者は，勝げて數う可からず。**延寔**は，**沖**（文明・孝文の時に柄用される）之子也，**帝**の舅なるを以て故に超拜するを得たり。

●［徐紇らの逃亡］**徐紇**の弟の**獻伯**は北海太守と為り，**季產**は青州長史と為り，**紇**は人をして之を告げしめ，皆な家屬を將いて逃げ去り，**紇**と俱に（9-081p）泰山（兗州に属す、東に逃亡）に奔る。**鄭儼**は從兄の滎陽太守の**仲明**と郡に據りて兵を起こさんと謀り，部下の殺す所と為る。

●丁未（43-24+1=２０日），內外に詔して嚴を解く。

■●［元顯達は梁に降り、国境緊迫］魏の郢州（魏は魏陽に克ちて梁の司州を郢州とす）刺史の**元顯達**は降を請い，郢州（梁の郢州は江夏郡に治す）刺史の**元樹**に詔して之を迎えしめ，**夏侯夔**（き）も亦た楚城より往きて之に會し，遂に留りて焉（ここ）に鎮す。魏の郢州を改めて北司州と為し，**夔**を以て刺史と為し，兼ねて司州（梁の初め魏陽陥り、司州を關南に僑置す。湖北省江漢道黄陂県の地、現・武漢市黄陂区。既に魏陽を復し因りて以て北司州と為す）を督せしむ。**夔**は進みて毛城を攻め，新蔡に逼る。豫州刺史の**夏侯但**は南頓を圍み，陳項を攻める。魏の行台の**源子恭**は之を拒む。

●庚戌（46-24+1=２３日），魏は**爾朱榮**の子の**義羅**（続は叉羅）に爵の梁郡王を賜る。

●柔然［柔然の入貢に特別待遇］柔然の**頭兵可汗**は數々魏に入貢し，魏は**頭兵**に詔して贊拜するに名のらず，上書するに臣と稱せざらしむ。

■●［魏の諸王は続々梁に來奔す］魏の汝南王の**悅**及び東道行台の臨淮王の**彧**は河陰之亂を聞き，皆な來奔す。是より先，魏人の降る者は皆な魏官を稱して僞と為し，**彧**は表啟するに獨り魏の臨淮王と稱す。**上**は亦た其の雅素なるを體し，之を責めず。魏の北海王の**顥**は將に相州に之かんとし，汲郡に至り，**葛榮**が南侵し及び**爾朱榮**の縱に暴するを聞き，陰に自ら安ずる之計を為し，盤桓して進まず。其の舅の殷州刺史の**范遵**を以て相州の事を行い，前刺史の**李神**に代わりて鄴を守らしむ。行台の**甄密**は**顥**の異志有るを知り，相い帥いて**遵**を廢し，復た**李神**を推して州事を攝せしめ，兵を遣わして**顥**を迎え，且つ其の變を察せしむ。**顥**は之を聞き，左右を帥いて來奔す。**密**は，**琛**（甄琛は宣武帝に事える）之從父の弟也。北青州（魏の北青州は東陽に治し梁の境より甚だ遠し。五代志に、東海郡に梁は南北二青洲を置き、郡は懷仁県を領すと。又注に云う、梁は南北二青洲を置くと。意に元世俊は懷仁の地を以て来たり降る也）刺史の**元世俊**（続は元世儁）、南荊州（五代志に曰く、春陵郡に後魏は南荊州を置く、湖北省襄陽道棗陽県、現・襄陽市棗陽市）刺史の**李志**は皆な州を舉げて來降す。

●［元羅は東道巡りて黜陟］五月，丁巳（53-53+1=１日）朔，魏は**爾朱榮**に北道大行台を加える。尚書右

僕射の**元羅**を以て東道大使と為し，光祿勳の**元欣**を之の副とし，方を巡りて黜陟し，先ず行いて後に聞せしむ。**欣**は，**羽**（孝文帝の弟、廣陵王に封じられる）之子也。

●［帝は爾朱榮誅殺を謀るもやむ］**爾朱榮**は入りて**魏主**に明光殿に見え，重ねて河橋之事を謝し，誓いて言わく、

「復た貳心無し。」

と、**帝**は自ら起ちて之を止め，因りて復た**榮**の為に誓い，言わく、

「疑心無し。」

と、**榮**は喜び，因りて酒を求めて之を飲み，熟醉す。**帝**は之を誅さんと欲し，左右は苦諫し，乃ち止む，即ち床を以て輿し中常侍省に向かう。**榮**は夜半に方に寤め，遂に旦に達るまで眠らず，此より復た禁中に宿さず矣。

●［榮の女は皇后に、その擧止輕脫］**榮**の女は先に**肅宗**の嬪と為り，**榮**は**敬宗**が立てて以て**后**と為さんと欲し，**帝**は疑いて未だ決せず，給事黃門侍郎の**祖瑩**は曰く、

「昔**文公**は秦に在り，**懷嬴**（左傳に、晉の世子圉は秦に質たり。秦伯は女を以てこれに妻わす。子圉は逃れ帰る。公子重耳秦に入る。秦は女五人を納れる。懷嬴はこれに與かる。秦は嬴氏なり。圉は懷公と諡す。故に懷嬴と曰う）入りて侍す。事は經に反して義に合う有り，**陛下**は獨り何ぞ疑うや焉！」

帝は遂に之に從い，**榮**の意甚だ悅ぶ。**榮**は擧止輕脫にして，**(9-082p)** 馳射を喜び，入りて朝見する毎に，更に為す所無く，唯だ戲れて馬に上下するのみ。西林園に於いて宴射するに，恆に**皇后**に出でて觀んことを請い，並せて王公、妃主を召し共に一堂に在り。**天子**の射て中たるを見る毎に，輒ち自ら起ちて舞い叫び，將相卿士は悉く皆な盤旋せしむ，乃ち妃主に至るまで亦た之に隨いて袂を擧げるを免れず。酒酣に耳熱するに及び，必ず自ら匡坐（正座）して虜歌（胡歌）を唱う。日暮れて罷め歸りて，左右と手を連ねて地を蹋み《回波樂》（虜歌の曲名）を唱いて而して出ず。性は甚だ嚴暴にして，喜慍は恆（続は常）無く，刀槊弓矢は，手を離さず，瞋嫌（不愉快）有る毎に，即ち擊射を行い，左右は恆に死憂有り。嘗て沙彌（俗を去るを僧、度を受けて戒を受けざるを沙彌）が一馬に重騎（二人乗り）するを見，**榮**は即ち相い觸れ令め，力窮まりて復た動く能わず，遂に旁人をして頭を以て相い擊た使め，死し而して後に已む。

●［爾朱榮は晉陽帰還］辛酉（57-53+1=４日），**榮**は晉陽に還り，**帝**は之を邙陰（邙山の北）に餞す。**榮**は**元天穆**をして洛陽に入ら令め，**天穆**に侍中、錄尚書事、京畿大都督を加え領軍將軍を兼ねしめ，行台郎中桑干の**朱瑞**を以て黃門侍郎と為し中書舍人を兼ねしめ，朝廷の要官は，悉く其の腹心を用いて之と為す。

●［魏主自立の模索］丙寅（2+60-53+1=１０日），**魏主**は詔す、

「孝昌以來，凡そ冤抑有りて訴える無き者は，悉く華林の東門に集まれ，當に親ら之を理さん。」

時に喪亂之後を承け，倉廩は虛竭す，始めて詔して、

「粟八千石を入れる者は爵の散侯（魏の制に開国侯の一品下）を賜り，白民の五百石を輸する者は出身を賜り，沙門には本州の統及び郡縣の維那（各々其の郡県の僧を管す）を授く。」

爾朱榮之洛に趣く也，其の都督の**樊子鵠**を遣わして唐州（北魏は孝昌中に置く，治所は白馬城、現・山西省臨汾市。528改晉州）を取らしむ，唐州刺史の**崔元珍**、行台の**酈恽**は拒み守りて從わず。乙亥（11+60-53+1=１９日），**子鵠**は平陽を拔き，**元珍**及び**恽**を斬る。**元珍**は，**挺**之從父弟也。

■●［荊州攻防戰］將軍の**曹義宗**は魏の荊州（魏の孝文帝太和中に荊州を穰城に置く）を圍み，水を堰きとめて城を灌し，沒せざる者は數板のみ。時に魏は方に多難にして，救う能わず，城中の糧は盡き，刺史の**王罷**は粥を煮，將士と均しく分けて之を食す。出でて戰う毎に，甲冑を擐せず，天を仰いで大呼して曰く、

「荊州城は，**孝文皇帝**の置く所なり，天若し國家を祐けざれば，箭をして**王羆**の額に中たら令めよ。爾らざれば，**王羆**は必ず當に賊を破るべし！」
三年に彌歴し，前後搏戦するに甚だ衆く，亦た傷を被らず。癸未（19+60−53+1=２７日），魏は中軍將軍の**費穆**を以て南征諸軍事を都督し，兵を將いて之を救わしむ。
●［元彧の帰還］魏の臨淮王の**彧**は**魏主**の位を定めると聞き，乃ち母老いたるを以て還るを求め，辭情は懇（ねんご）ろに至る。**上**は其の才を惜み而るに違う能わず，六月，丁亥（23−23+1=１日），**彧**を遣り還す。魏は**彧**を以て侍中、驃騎大將軍と為し，儀同三司を加える。
●［高乾は魏主に降る］魏の員外散騎常侍の**高乾**は，**祐**（高允の從祖弟）之從子也，弟の**敖曹**、**季式**と皆な輕俠を喜び，**魏主**と舊有り。**爾朱榮**之洛に向かう也，齊州に逃奔し，河陰之亂を聞き，遂に流民を集めて兵を河、濟之間に起こし，**葛榮**の官爵を受け，頻る州軍を破る。**魏主**は**元欣**をして諭旨せ使め，**乾**等は乃ち降る。**乾**を以て給事黄門侍郎と為し武衛將軍を兼ねしめ，**敖曹**を直散騎侍郎と為す。**榮**（爾朱榮）は以えらく、**乾**兄弟は前に叛亂を為し，應に復た近要に居らしむべからず，**魏主**は乃ち官を解き鄉里に歸るを聽す。**敖曹**は復た抄掠を行い，**榮**は誘いて之を執り，**薛修義**（龍門の鎮將で蕭寶寅に附く。既に降りて反側す、故に又拘留せらる）と同じく晉陽に拘ず。**敖曹**の名は**昂**（高ぶる），字を以て行われる。

【葛榮討伐軍】

●［魏主は葛榮討伐軍を指揮］**葛榮**の軍は食乏しく，其の僕射の**任褒**を遣わして軍を將いて南掠せしめて沁水（河内郡の県、旧野王、河南省河北道泌陽県、現・焦作市沁陽市）に至る。魏は**元天穆**を以て大都督東北道諸軍事と為し，**宗正珍孫**等を帥いて之を討たしむ。前幽州平北府の主簿の河間の**邢杲**（けいこう）は河北の流民十萬餘戸を帥いて青州之北海に反し，**漢王**を自稱し，改元して天統とす。戊申（44−23+1=１２日），魏は征東將軍の**李叔仁**を以て車騎大將軍、儀同三司と為し，衆を帥いて之を討たしむ。辛亥（47−23+1=２５日），**魏主**は詔して曰く、
「**朕**は當に親ら六戎（六軍くらいの意味か）を御し，燕、代を掃靜すべし。」
大將軍の**爾朱榮**を以て左軍と為し，上黨王の**天穆**（穆×）を前軍（前國×）と為し，司徒の**楊椿**を右軍と為し，司空の**穆紹**を後軍と為す。**葛榮**は退いて相州之北に屯す。秋，七月，乙丑（1+60−52+1=１０日），魏は**爾朱榮**に柱國大將軍を加え、尚書事を錄せしむ。
●壬子（48−52+1=），魏の光州民の**劉擧**は衆を聚めて濮陽に反し，皇武大將軍を自稱す。
●［ペルシャの獅子献上］是月，**万俟丑奴**は**天子**を自稱し，百官を置く。會々波斯國（ペルシャ国）は師子を魏に獻じ，**丑奴**は之を留め，改元して神獸とす。
●■［羊侃の南帰］魏の泰山太守の**羊侃**は，其の祖の**規**の嘗て宋の**高祖**の祭酒從事と為るを以て，常に南歸之志有り。**徐紇**は往きて之に依り，因りて**侃**に兵を起こすを勸め，**侃**は之に從う。兗州刺史の**羊敦**は，**侃**之從兄也，密に之を知り，州に據りて**侃**を拒む。八月，**侃**は兵を引いて**敦**を襲うも，克たず，十餘城を築きて之を守り，且つ遣使して來降す。廣晉縣侯の泰山の**羊鴉仁**等に詔し兵を將いて應接せしむ。魏は**侃**を以て驃騎大將軍、泰山（博に治す）公、兗州（暇丘に治す）刺史と為すも，**侃**は其の使者を斬り受けず。
■將軍の**王弁**は魏の徐州（澎城に治す）を侵し，蕃郡（山東省済寧道滕県、現・棗莊市滕州市）民の**續靈珍**は衆萬人を擁して蕃城を攻め以て梁に應じる。魏の徐州刺史の**楊昱**は**靈珍**を擊ち，之を斬り，**弁**は引いて還る。
●甲辰（40−22+1=１９日），魏の大都督の**宗正珍孫**は**劉擧**（擧×）を濮陽に擊ち，之を滅ぼす。
●［電光石火爾朱榮は葛榮の大軍撃破］**葛榮**は兵を引いて鄴を圍み，衆は百萬を號し，遊兵は已に汲郡

（河南省河北道汲県、現・新郷市衛輝市）を過ぎ，至る所殘掠し，**爾朱榮**は啟して之を討たんことを求む。九月，**爾朱榮**は從子の肆州刺史の**天光**を召し留まりて晉陽に鎮せしめて，曰く、

「我が身は至處を得ず，汝に非ざれば以て我が心に稱う無し。」

自ら精騎七千を帥い，馬は皆な副有り，倍道兼行す。東に滏口に出で，**侯景**を以て前驅と為す。**葛榮**は盜を為すこと日久しく（梁の普通七年に葛榮は鮮于修禮の衆を併合），河北に橫行し，**爾朱榮**は衆寡く敵に非ず，**(9-084p)**議者は謂えらく、勝ちを取る之理無しと。**葛榮**は之を聞き，喜びは色に見われ，其の衆に令して曰く、

「此れ與し易き耳，諸人は俱に長繩を辦じ，至れば則ち縛取せん。」

鄴より以北に，陳を列べること數十里，箕張（箕の張るように広げて）し而して進む。**爾朱榮**は潛に山谷に軍し，奇兵と為し，督將已上を分けて三人を一處と為し，處に數百騎有り，所在に塵を揚げて鼓噪せ令め，賊をして多少を測らざら使む。又た以えらく、人馬逼りて戰えば，刀は棒に如かず，軍士を勒して袖棒一枚を繼ぎ，馬側に置かしむ，戰う時に至りて騰逐を廢せんことを慮り，斬級（首を斬りて以て功級を計る）を聽さず，棒を以て之を棒たしみ而して已む。分けて壯勇に命じ向かう所衝突せしめ，號令は嚴明にして，戰士は同じく奮う。**爾朱榮**は身自ら陳を陷し，賊の後に出でて，表裡合い擊ち，大いに之を破る。陳に置いて**葛榮**を擒とし，餘衆は悉く降る。賊徒は既に衆きを以て，若し即ち分割すれば，其の疑懼して，或は更に結聚せんことを恐れ，乃ち下令して各々樂しむ所に從い，親屬は相い隨い，居止する所に任す。是に於いて群情は大いに喜び，登に即ち四散し，數十萬の衆は一朝に散盡す。百里之外に出て待ち，乃ち始めて分道して押領し，便に隨いて安置し，鹹な其の宜しきを得る。其の渠帥を擢んでて，才を量りて任を授ける，新附の者は鹹な安んじ，時の人は其の處分の機速に服す。檻車を以て**葛榮**を送りて洛に赴かしめ，冀、定、滄、瀛、殷五州は皆な平らぐ。時に上黨王の**天穆**は朝歌之南に軍し，**穆紹**、**楊椿**は猶ほ未だ發せず，而るに**葛榮**は已に滅び，乃ち皆な兵を罷む。

●［宇文泰は爾朱榮の統軍となる］初め，**宇文肽**は**鮮于修禮**に從いて定州を攻め，唐河（三水に寇の水、源は山西省雁門道渾源県に出て、直隷省保定水戸唐県を経る）に戰死す。其の子の**泰**（北周・太祖の宇文泰の初登場）は**修禮**の軍中に在り，**修禮**は死し，**葛榮**に從う。**葛榮**は敗れ，**爾朱榮**は**泰**之才を愛し，以て統軍と為す。

●乙亥（11+60-51+1=２１日），魏は大赦し，改元して永遠とす。

●［爾朱榮の論功行賞］辛巳（17+60-51+1=２７日），**爾朱榮**を以て大丞相、都督河北畿外諸軍事と為し，**榮**の子の平昌公の**文殊**、昌樂公の**文暢**は並びて爵を進めて王と為す，**楊椿**を以て太保と為し，城陽王の**徽**を司徒と為す。

●[葛榮斬首]冬，十月，丁亥（23-21+1=３日），**葛榮**は洛に至り，**魏主**は閶闔門（洛城の西に廣陽・西明・閶闔の三門有り。また洛陽の宮城門を閶闔という）に御して引見し，都市に斬る。

■［梁は魏の北海王の顥の帰還させる］**帝**は魏の北海王の**顥**を以て**魏王**と為し，東宮直閤將軍の**陳慶之**を遣わして兵を將いて之を送りて北に還らしむ。●丙申（32-21+1=１２日），魏は太原王の世子の**爾朱菩提**を以て驃騎大將軍、開府儀同三司と為す。丁酉（33-21+1=１３日），長樂等七郡各々萬戶，前に通じて十萬戶を以て，太原王の**榮**の國を為す。戊戌（34-21+1=１４日），又た**榮**に太師を加える。皆な**葛榮**を擒にする之功を賞する也。

●壬子（48-21+1=２８日），魏の江陽の武烈王の**繼**は卒す。

●魏は征虜將軍の**韓子熙**をして**邢杲**を招諭せ使め，**杲**は詐りて降り而して復た反す。**李叔仁**は**杲**を濰水に擊ち，利を失い而して還る。**(9-085p)**

●魏の**費穆**は荊州に奄至し，**曹義宗**の軍は敗れ，魏の擒とする所と為る，荊州之圍（三年の包囲）は始めて解く。

■**元顥**は魏の鋊(らつ)城（漢には沛郡に属す、魏晋には譙郡に属す。安徽省淮泗道に属す）を取（続は襲）り而して之に據る。

●■［羊侃の郡の崩壊］魏の行台の尚書左僕射の**於暉**等の兵數十萬は，**羊侃**を瑕丘に撃ち，**徐紇**は事の濟らざるを恐れ，**侃**に說き師を梁に乞わんと請い，**侃**は之を信じ，**紇**は遂に來奔す。**暉**等は**侃**を圍むこと十餘重，柵（機×）中の矢は盡き，南軍は進まず。十一月，癸亥（59-50+1=１０日）夜，**侃**は圍みを潰えて出で，且つ戰い且つ行き，一日一夜にして乃ち魏の境に出で，滍口に至り，衆は尚ほ萬餘人，馬二千匹あり。士卒は皆な竟夜悲歌し，**侃**は乃ち謝して曰く、

「卿等は土を懷む，理は相（見×）い隨う能わず，幸いにも去留に適(まか)す（好きにせよ），此に於いて別れを為さん。」

各々拜辭し而して去る。魏は復た泰山を取る。**暉**は，**勁**（孝文帝に事える）之子也。

●戊寅（14+60-50+1=２５日），魏は上黨王の**天穆**を以て大將軍、開府儀同三司と為し，并州刺史を世襲せしむ。

●十二月，庚子（36-20+1=１７日），魏は**於暉**に詔して師を還して**邢杲**を討たしむ。

●［葛榮の餘黨の叛乱］**葛榮**の餘黨の**韓樓**は復た幽州に據りて反し，北邊は其の患い被るを。**爾朱榮**は撫軍將軍の**賀拔勝**を以て大都督と為し，中山に鎮せしむ。樓は**勝**の威名を畏れ，敢えて南に出でず。

令和 4 年 12 月 24 日　　翻訳開始　7829 文字
令和 4 年 12 月 28 日　　翻訳終了 16602 文字